

まもりすまい保険申込住宅の基礎形式及び地盤補強方法採用割合調査

届出事業者より提出された地盤調査報告書等により、「基礎仕様」及び「地盤補強工法」の採用割合を都道府県別に集計しました。

1. 本報告の対象物件

届出事業者より提出された「地盤調査報告書」及び「地盤調査報告書提出添付シート」の記載内容に基づき集計しました。

対象物件は、まもりすまい保険として保険申込を受け、保険証券発行後、平成23年4月までにデータセンターに設計図書等が到着した物件のうち、地盤調査報告書等が添付されていたものを集計しています。「保険証券発行戸数」とデータセンターで集計したデータとでは、対象となる物件に若干のずれが生じています。

2. 傾向

- 全国のべた基礎：布基礎の採用割合は88.9%：11.1%。多くの都府県でべた基礎が98%以上の割合を占めていますが、北海道を筆頭に布基礎が比較的高い割合の県（青森、岩手、秋田、山形、新潟、富山、石川、山梨）もあります。これは凍結深度による影響と推測されます。
- 全国の地盤調査実施率は82.8%。地盤補強実施率は43.8%です。都道府県別に見ると、地盤調査の実施率は一部を除き多くの都道府県が概ね80%前後になっているのに対して、地盤補強の実施率は都道府県ごとにバラツキがあります（1割未満～7割超）。ただし、「1.」で説明したとおり、本データは地盤調査が行われた物件のみを対象としているため、地盤調査をしていない物件を加味すると、地盤補強の実施率は全体的に少し下がると考えられます。
- べた基礎の地盤補強率は51.7%。布基礎の地盤補強率は61.6%。全国的にべた基礎より布基礎の場合の方が地盤補強の実施率は高い傾向にありますが、べた基礎での補強率の方が高い都道府県は、大都市圏に多い傾向にあります。
- 地盤補強工法の内訳は、べた基礎において柱状改良の比率が66.4%と圧倒的に高く、布基礎においては柱状改良と鋼管杭等がそれぞれ40%強と拮抗しています。工法は都道府県ごとの差が大きく、中部、近畿の各府県において表層改良の割合が比較的高い傾向にあります。